

上川陽子茶業会議所会頭との意見交換会

日時：平成 30 年 12 月 3 日 午後 1 時～

場所：島田市 ふじのくに茶の都ミュージアム 多目的ホール

主催：(公社)静岡県茶業会議所 ふじのくに茶の都ミュージアム

1 出席者 別紙

2 生産者の意見

- ・茶園が荒廃し、産地が消滅してしまう状況にあり、荒廃茶園を借受け、ドリンク原料は作れば売れるが、需要は自分達で開拓し、高級茶作りに励んでいる。(JA 清水)
- ・荒廃茶園再生のための補助が欲しい。(JA 清水)
- ・八十八夜に間に合わない山間地で茶作りしているが、あと、十年もすれば、消えてしまう。(JA 静岡)
- ・大型工場も廃業する状況で、個人経営であっても、摘採・製造と共同管理が必要で、乗用の摘採ができる茶園作りでないと食べていけない。(JA 静岡市)
- ・売れる茶として、有機栽培に取り組んでいるが、難しく、茶商とのマッチングが必要 (JA 静岡市)
- ・平坦地でも荒廃茶園が目立つようになった。生産家も減少しており、基盤整備が先か農地が消えてしまうかの状況 (JA ハイナン)
- ・複合経営が多く、茶離れがすすみ、茶園面積の維持もむずかしい (JA ハイナン)
- ・若い従事者がいない。(JA 大井川)
- ・25 年前からてん茶作りを行っているが、2～3 年で結果がでない、新しいことにチャレンジするのが難しい。(JA 大井川)
- ・お茶は売れなくなっているが、あるアンケート結果によると潜在するマーケットがあるとのことであるが、電気ケトルが普及して常に沸騰したお湯でお茶を入れる状況もあり、高いお茶も美味しくない。(JA 大井川)
- ・急須にもファッション性がなく、熱湯を入れても美味しく飲めるおしゃれな急須の開発等が必要 (JA 大井川)
- ・コーヒーもインスタントからドリップの消費が伸びているので、煎茶も、ドリンクからリーフが伸びる潜在的な需要はある (JA 大井川)
- ・若い人は、ドリンク需要をターゲットにし、全量出荷に取り組んでいるところもあるが、値段が契約で決まっているので、経費削減が大変。(JA ハイナン)
- ・終末排水が大変で補助が受けにくい。(JA ハイナン)

3 茶商の意見

- ・関東から東北にかけて小売店が減少し、販路がなくなっている。(焼津)
- ・小売店は、消費者が茶に触れる機会でもあるので、小売店の支援が必要。(焼津)
- ・鹿児島県は、新茶シーズン等に、小売店へ支援をおこなっている。(焼津)
- ・5 年目になる日本茶アワードが開催されたが、ここ数年静岡県の受賞がないのは、消費者が求めるものと乖離しているのではないかと (島田)
- ・本県の茶業は大変な時代で、自力で励んでいくしかない。補助金も輸出関係に偏っているので、機会の均等が望ましい。(島田)
- ・消費地のリーフの売れない 1/3 になっている。消費地に急須がなく、学校で急須での淹れ方を知らない先生がいて、ドリンクとは違うお茶の味を知らない。現状では、茶商も 5 年後には消えてしまう。(榛原)
- ・本県の茶は売れない認識を持つ必要があり、流通形態にもひずみ生じている。(焼津)
- ・飲料原料の市場は、補助する必要があるのではないかと (島田)
- ・茶研究センターとのコミュニケーションが、生産・流通ともに、少なくなっている。経験と理論に基づく茶生産が必要、新しい未来を作るには技術革新が必要である (島田)

4 まとめ

- ・それぞれの産地に、特色があるので、特色を生かせるマッチングが必要で、茶研究センターも、今年 110 周年を迎え、その歴史は見てもそれぞれ、乗り越えてきた。気持ちを統一して、自分達でお終いではなく、今までの技術を伝播していくとともに、茶研究センターといっしょに新しい技術を開発していくことが必要。いろいろな、声をつなげ、若い人たちが伸びていくにはどのように繋いでいくのか、今までの評価を分析し、再考すること。
(会頭)

◎消費をどのように伸ばしていくのか

- ・一番茶の需要が伸びないと言われているが、一度飲んでみて感激して買っていく消費者もいる。子供の頃から、飲ましていく (白井)
- ・高級なドリンクを作る。フィッターインボトルの需要は高いので、個性のあるお茶の潜在的な需要はある。(白井)
- ・抹茶のブームもあり、抹茶の需要は高いが、世界じゅうで製造されているので、日本は、作りすぎている。(茶商)
- ・1 番茶の高級ボトル 1 本 300~500 円のドリンク需要はあると思うので、急須で飲む茶をそちらにシフトしていく。ボトルだけの全国品評会の開催 (茶商)
- ・様々な品種を製造しているが、小売店からの注文もある。ペットと違うお茶が求められている。(JA 清水)
- ・複合経営は、どちらかに引っ張られるので、専門が望ましい。注文の価格に見合う茶を作っていく。(JA 清水)
- ・作った茶を売るには、茶商から必要な茶の情報を生産家に伝えて欲しい。(経済連)

◎マッチング

- ・情報を交換する一番いい時期は、どのくらいなのか？マッチングの場所、新茶シーズン以外にもあるのか？ (会頭)
- ・価格さえ言ってくれたら、それ相応の対応は可能 (JA 清水)
- ・他の農産物とは違う (茶商)
- ・低価格の製造法が必要、傾斜 20 度でも対応できる乗用が必要 (JA 静岡市)
- ・買取販売、格差のでない経営を (JA 静岡市)
- ・消費者の意見として、お茶が美味しくなくなっている。その原因は、肥料が少ないのでは (茶商)
- ・茶は、文化になってはいけない、美味しくないから売れない。(茶商)

皆さんの意見を聞き、様々な場にも参加して、対策を作り上げていきたい。(会頭)

5 写真



別紙

上川陽子茶業会議所会頭との意見交換会出席者

平成 30 年 12 月 3 日 (月)

区分	所 属	役 職	氏 名	備 考
団体行政	茶業会議所	会頭	上川陽子	
	〃	専務	小澤俊幸	
	静岡県お茶振興課	課長	望月辰彦	
	〃	技師	吉田和裕	
	ふじのくに茶の都ミュージアム	副館長	白井 満	
	〃	上席研究員	永谷隆行	
	県茶商	専務	高瀬英夫	
	県経済連	茶業部長	堀 要	
	〃	茶業課長	真田泰伸	
茶商	焼津茶商組合 (長峰製茶㈱)	組合長	多々良高行	
	島田茶商組合 (㈱丸七鈴木商店)	組合長	鈴木成彦	
	榛原茶商組合 (㈱双葉園)	組合長	池田幹男	
生産者	J A しみず 清水農協茶業委員会	委員長	片平次郎	
	J A しみず 清水農協茶業委員会	副委員長	杉山雅孝	
	J A しみず 営農部営農振興センター	主任	望月保秀	農協職員
	JA静岡市 茶業委員会	副委員長	杉山喜太郎	
	JA静岡市 足久保ティーワークス茶農協	組合長	吉本邦弘	
	JA静岡市 販売部	部 長	梶山淑弘	農協職員
	JAハイナン 茶業部会長・総務委員・営農経済委員		西谷光夫	
	JAハイナン 営農経済委員・茶業部会委員		大石守昭	
	JAハイナン 茶業部	副部長	三浦三男	農協職員
	JA大井川 株式会社市之瀬の里	代表取締役	勝治義男	
	JA大井川 下湯日茶農業協同組合		宮村壮五	
	JA大井川 営農部	部 長	梶山善規	農協職員
事務局	茶業会議所	総務部長	天野尊人	
	上川陽子事務所	秘 書	森内 近	